

日本クリスチャン・アシュラム連盟

秋季号

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本アシュラム

United Christian Ashrams of Japan

Autumn 1976

正統信仰の徹底

—アシュラムのクリスト教界への貢献—

満 丸 茂

一、序

アシュラムの主軸をなす聖句は「イエスは主である」(コリント人への第一の手紙12章3節)です。アシュラムの五大原則を貫くものも、この聖句です。おそらく、これは世界最初の信仰告白であり又、今日までの正統信仰の主軸をなす聖句でしょう。アシュラムはこの信仰を徹底し、この体験を貫かしめるものです。

二、正統信仰の主流を行く

一九〇〇年のキリスト教史において、色々な信仰、思想、神学が起つては、姿を消して行きました。イエスがピリポ・カイザリヤに行く途中弟子たちに対して「あなたがたはわたしとだれと言うか」と質問されました。それに対して、シモン・ペテロは答えて言いました。「あなたこそ生ける神の子キリストです」。これを他の言葉で表現するなら「イエスは主である」との信仰告白になります。一九〇〇年の教会で、この信仰告白は、ある時は力強く告白され、命をかけて信じぬかれた事もあったでしょう。ある時は消えなるとした時もあったでしょう。併し、キリスト者たるもの、この信仰告白に命をかけねばなりません。又ここに大いなる力と、喜びと、感謝とがあります。スタ

ンレー・ジョーンズ博士は、アシュラムにおいて、この信仰告白を主軸として下さいました。

④ サイン。アシュラムの挨拶は、三本指を突き出します。「イエスは」「主で」「ある」これを示したものです。

⑤ アシュラムの中で、この信仰はアシュラムの中で徹底的に信じこみ、実感します。

⑥ 生活の中で。この信仰はアシュラムの中に留まりません。立証、献身、奉仕、伝道の中に生かされます。

「イエスは主である」信仰と、体験こそ、あらゆる教派を越えた基本信仰です。従って、正統信仰と求める人々は、アシュラムへの参加を喜びます。そして更に、徹底的にイエスは主である事と体験します。

三、正統信仰から離れるもの

聖書の時代から、イエスは主である信仰を正しく信じない人々が居ました。グノーシス主義がそうでした。近代では、イエスは救主でなく、単に模範であるとする自由主義の人々、イエスはキリストではないとする人々も今日は居ます。恐ろしい事です。

この様な時代こそ、「イエスは主であ

る」信仰を徹底せしめるべきです。この点において、アシュラムが、今日のキリスト教界に、正統信仰の旗をかげ、これに生き抜き、徹底せしめる点での貢献は計る事が出来ません。

しかも、生ける信仰、力ある信仰をアシュラムは植えつづけます。

四、兄弟愛への実践

アシュラムは、非常に内面的な性質を持っていきます。これが信仰の中心であり基礎です。

ところが、そのキリストがマタイによる福音22章39節、25章31〜46節で兄弟愛の実践を重んじて居られます。そして、これは聖書を通じて一貫した態度です。内面的のみの信仰は車の両輪の片側のみです。他の一つ、即ち、兄弟愛の実践がともなうて、初めてキリストを喜ばす信仰生活です。

アシュラムで養われた信仰は、やがて我らの周囲の人々へと移行しなければなりません。人間が大事にされる生活、社会への変革(暴力によらない)への実践をなしてこそ、イエスは主である信仰を全うする事が出来ます。

(日キ教団大宮前教会牧師・関東地区アシュラム委員)

『その胎内に宿っているものは聖霊によるのである。彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼はおのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである』(マタイ一章)

りであって、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

発行人 大石 嗣
定価 一部 50円 二部 50円

山根可式者
『アシュラムの恵』(百円)

第十五回関東アシュラム日誌

ただ一人の指揮者 イエス・キリスト

牧師の多く集まる関東アシュラムだが、教職信徒が一体となり、肩書を一切取りはずしてただ一人の指揮者の前に総勢七十一名声高らかにさんび。

御言に聴従する時間も長かった。遠くは大島や新潟県栃尾よりの参加もあった。昨年同様、連鎖祈禱が旺盛で午後九時より翌朝六時まで二日間、一人一時間単位で折り続けられる。

第一日(十四日)

○開会礼拝 14時~14時50分(大久保進) (一)内は担当者。ルカ七章36節より50節、キリストにふれた女を通して信仰をもって進めと説教。

○オリエンテーション 14時50分~15時 (横山義孝) 主役はイエス・キリスト、脇役は私達参加者である。アシュラムの意味を説明し、互いに垣根をとるよう方向づけられる。

○全体開心 15時10分~16時(満丸茂)

ヨハネ黙示録3章20節より神に心を開き、神のみをわが内に入れるようにとすすめ、牧師自身の開心からフロアの人々に開心の輪を拡げる。「エゴのとびらの把手を神にとりかえてもらいたい。」と。つぎつぎに開心のことが語られていく。

○分団開心は二回、座長に次の者があたる、満丸茂、武井啓治、横山義孝、菊地

いう、中村武、河合光治、岡田実 ○み言葉の学びI 19時~21時(山根可式) ヨハネによる福音書4章21節~25節までを通して「聖霊による認罪と明け渡し」を問題にする、ご自身の体験談よりイエスの中に自殺しなさいとすすめ、数名の者がこれにに応じて証詞する。

第二日(十五日)

○静聴 6時30分~7時30分(中村武) ローマ人への手紙10章・12章に聴くより深く静聴出来るようにと、しばらくパウロの心境をテキストにそって語る。

○み言葉の学びII 9時~10時30分(河合光治) 「聖霊による改変」を主題にガラテヤ人への手紙5章16節より26節により、聖化(きよめ)は努力して与えられるものでなく聖霊を宿してその結果改変させられるものであると平易に解説。

○み言葉の学びIII 14時~15時(武井啓治) 「聖霊による働き」(ルカによる福音書11章9節~13節) ペテロはただ聖霊にみたまされて十字架と復活を語った。余計なことは語らなかつた、聖霊について聖句を尋ねつつ発題された。

○さんびとあかし 19時~21時(岡田実) 帆足誠牧師の指導でアシュラムの歌と新生の歌を讃美する。引き続き、山元真理子姉(新宿西) 西村笑子姉(大宮

前) 松沢儀一兄(大宮前)の心にしみる証して感動の波。岡田実牧師が「あなたは自己に支配されているのか聖霊に支配されているのか」と私達の心をゆさぶる。最後に岡田実師、河合光治師、横山義孝師によっていやしの時間をもつ。

第三日(十五日)

○静聴 6時30分~7時55分(菊地いう) 詩篇23篇~25篇を静聴、菊地師の証詞をもとないつつ導かれる。静聴を続けることが、アシュラムのめぐみを持ち続ける秘訣であると。

○ファミリアアワー 9時~9時55分(横山義孝) 一九七六年度事業報告、ミアシュラム報告、協議事項、委員改選で質疑。規約改正に顧問を置くことが承認され、今回は高瀬恒徳師が選出された。新委員に横山義孝、中村武、有馬歳弘、井本富三郎、海老沢宜道、岡田実、大久保進、萱沼孝文、河合光治、菊地いう、武井啓治、淵江淳一、帆足誠、松田浄、満丸茂、山根可式を選出。三役の互選と更に二名の委員補充の件は新委員会に一任された。

○充満の時 10時~12時(横山義孝) エペソ人への手紙3章14~19節を通して奨励され、受けたためぐみの感謝と決意が語られた。その後、二人が一组となり互いに祈りあう。讃美歌を腕を組みながらうたい数名の者が祈った。皆、よろこびにみたまされ三本指の挨拶も力強く、来年の再会をたのしみつつ帰途につく。

(中村武 記)

クリスチャン

アシュラムの守り方(五)

海老沢 宣道

▽朝の静聴

アシュラムは終始、努めて世間話やむだ話をさげます。(テモテ第二書二章一四以下) 特に徹夜の連鎖祈禱が初まる午後十時から午前六時半までは「沈黙の時」として守ります。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」(詩四六)とあります。少年サムエルのように夜半に神の御声がかかるかも知れません。神に聴き神と語る時です。万一廊下などで人と出会う時もお互の挨拶は笑顔をもって三本指を掲げ合うことにしましょう。夜明けにはまず主の御前に挨拶すること厳守して頂きたいものです。

午前六時半に「静聴の時」を守ります。沈黙の続く中で聖書を黙読します。聖書の箇所は各自示された所でのよいのですが、共に集まるアシュラムでは初心者もおることすから、予め提示された同じ章節を共に黙想し、深く祈りに入り、示された節(聖句)を心に留めます。聖書を通読することも必要ですが、唯何回も棒読みするだけでは意味がありません。聖書を通して主の御声を聴き、何をなせ、かくあるべしと命じられる事を明確に聴きとることが大切です。忘れないためにその事をノートに書留めておくことは反省のために有効です。

自分を明渡して心を開き、イエスを主と仰ぎ、ひたすらに「主よ、お話し下さ

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

海老沢理事長を迎えて 第八回中部アシュラム 開かる

内村サムエル

今年初めて活版印刷で案内文を作り各教会に配布し、委員一同の祈りのうちに東京から新理事長の海老沢宜道師を迎えて、去九月十四日夕刻から十五日夜まで一麦教会を会場として、台風十七号の傷跡が残っている中を、十一教会から六〇名参加して開かれた。

開会礼拝は内村委員長が今日の教会と信徒の生活に裏つけとし底力としてこの精神の必要を説かれ、続いて開心の時を海老沢師の助言で、各自のニードを告白し、イエスを主と仰ぎ新しく明渡した。翌朝五時半から有志の早朝祈禱が捧げられ、六時半から静聴の時を海老沢師の導きの下、ピリピリ書一、二章を中心に黙想して恵みを分かち合い、原田委員の司会の下に祈禱会を持った。

朝食後、赤石義明師(八九才)を迎え聖書の真理とその受取り方についての話を伺い有益であった。昼食後、祈りの分団で互の悩みや恵みの証を分かち合い共折った。ファミリアアワーで、日本連盟の近況、中部の今後について話合う。夕食後、充滿敵身の時を再び海老沢師の司会で守り、病も罪も死も一切を主に委ね、徹底的にキリストを受入れ、従い、愛し、明渡し、一人残らず明日からのアシュラム生活を開始する決意を告白し、聖霊の充滿を祈りとさんびして散会。

中部の特色は会費一切を集めず、集会中に三回の献金を捧げて、連盟負担金、ジョーンズ記念献金、事務費、食事費一切が充滿したこと。三度の食事を一麦教会婦人会の方々が奉仕して美味しく頂いたことで、今回は特に正統的なアシュラムを導かれた、この集会は他の特別集会とちがいで、心和やかなうちに主を中心とした交わりに入れられ、この靈氣をそのまま家庭に持ち帰ることができるのが嬉しいと語った人もあり感謝であった。

第七回道南アシュラムの開催

山根可式師を迎えて

「静聴の生活」を中心として

今年の道南アシュラムは、九月十八・十九・二十日函館福音教会を会場に開催された。参加者三教会より五十五名。助言者として東京から山根可式師を迎へ前夜に委員会を開いて日程進行につき十分な打合せをした。同師著「アシュラムの恵」をテキストに、祈りによって主にあ

る交わりを深化し、聖化され、栄化をめざして、開心、明け渡し、静聴、充滿の時をもった。特に今回のアシュラムでは五大原則の第四を開心の次に入れ、第五は、「充滿の時」に話合いと祈りにより具体的に把握するよう企画した。十八日午後の増井牧師の説教にて開会礼拝、電子オルガンによる壮嚴な聖歌の合唱による雰囲気の中で、スタンレー・ジョーンズの残した「イエスは主である」との豊かな恵みを説かれ、ウガンダに起ったリバイバルにつづいて語り、今日の教会が

初代教会のように気落ちせず、熱心に祈り求めるよう訴えられ当初から感動の一時であった。

信仰者の成長について、悔改めから明渡し、キリストの形なるまでを三段階に提示されて山根可式師より懇切に、平易に説き明され、「イエスはわたしたちの主であり、教会の主である」ことを教えられた。このスタンレーさんの教えが徹底的に信仰生活の基準となるようにとの勧めであった。最初予定された第四、第五について十分に分ち合う機会がなかった。これは次回の課題としたい。今回の特色は静聴の時を活々として守られたことである。第一回はイザヤ五四の七一〇、第二回は詩篇三二の一七を通して一同の目が開かれ、「真に主はここに在す、僕さく」という体験をした。静聴によって聖霊の導きがあり、溢れ出てやまない充滿に至ることを導かれた。

十九日の日曜礼拝は、ハリス監督記念・函館教会で山根師の礼拝説教「アシュラム生活」(聖書コリント人への第一の手紙一一・三)を伺う。その後にくたわられた讃美歌一一一は同師の救われた愛歌であった。

二十日の充滿の時はアシュラム・ファミリアと呼ぶにふさわしいコイノニアの一時であった。「主よみ手もて」の讃歌を合唱しながら手をつないで、幼子のごとく、神の国に入る思いがした。来年度の再会を約しながら、福音教会婦人会の心尽しの愛餐に心暖まる思いがした。記念写真を撮り散会。(白川・増井報告)

(三) 聖書の啓蒙と祝福
(四) 神の国の体験と献身
(五) 教会への奉仕と伝道

い。僕は聴きます」という状態になっている時、主イエスは語りかけて下さるのです。聖書を聞いても心を聞いていない時には聴きません。祈っても主イエスを心眼で仰ぎ見ないならば聞かれないでしょう。主イエスは「自分のへやに入り、戸を閉じて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい」と言われました。これは全てのクリスチャンが毎朝自宅において守るべき所謂「密室の祈り」です。ある先輩の牧師が、「朝の十五分があなたを変える。朝起きて最初に見るもの、聞くもの、言うことは何か。それが主イエスであれば、あなたは変わる、五分を聖書に、五分間を祈り、五分間でノートに記入するのである。なくてはならぬものは多くない。一つだけである。それは主イエスとの交わりである」と言いました。主イエスにならって「朝早く、夜の明けける前に静かな所で祈りの時を持つ」のが「静聴の時」です。祈りとは自分の願いを申上げることだけではなく、主の御心を伺うことも含まれています。アシュラムでは以上のことを各自の日常生活に取り入れて頂くために、修練としてこの時間を持つので、まず司会者から示された聖句と啓示との分かち合いを初め参加者一同もそれにならって、自由に分かち合いを初めます。ここでは皆が教師となり生徒となるのです。静聴はアシュラムの生命線であり、全日程を貫く基調であることを覚え、厳格に守られることが期待されます。

クリスチャン・アシュラム

に捧ぐる歌

沢 白夢作

一、主イエスよ、われら 目前に佇どい
この世の思い 我欲もすべて
明け渡しつつ ひたすら祈る
ああアシュラムの 開心の時。

二、主イエスよ、われら 目前に伏して
罪を悔いつつ 求むる胸に
ささやきたまえ きよき御声を
ああアシュラムの 静聴の時。

三、主は 聖霊の 油をそそぎ
愛のほのほは もえ上りたり
いざハレルヤの うたをささげん
ああアシュラムの 充満の時。

四、「イエスは主なり」わが身もたまも
今、主のものと きよめられたり
いざ感謝もて 仕えまつらん
ああアシュラムの 献身の時。

祈りのうちに待望の
さんびか二七三、B曲に合せてうたう。

東京城西アシュラム(第一回)

東小金井教会にて開かる

東京都の西部地区にもぜひ開かれるよう
祈りに答えて、主は病弱の洲江渾一牧師
を強め、三鷹の池本金三郎師、国立の帆
足誠師の心を動かし連盟理事も協力して
共に数回の祈祷会を持ち、去る九月二三
日(秋分)朝十時から夕五時まで初めて
のアシュラムを持つことができた。何人
参加するか心配したが当日朝になると十

教会から三一名参加、開心(海老沢)祈
りの分団(中食)静聴(帆足)聖書(洲
江)分団、決断(池本)充満(山根)と
いう順で、一日があつたという間に過ぎた
ように時を忘れ、ひたすら主に仕え、主
との交わりを持ち互に祈り励まし合う幸
いを得た。当日のテキストはコリント第
一書の十二、十三章であつた。初めての
人々も一同、聖霊の一致に入ることがで
き感謝のうちに握手をして帰途につく。

予 告

〇四国アシュラム(第十一回)

十一月二十四日 松山市済美会館
協力者 海老沢宜道理事長
主催委員長 宅都宮 充理事

〇江古田教会一日退修会(第二回)

十一月十四日(日)東京江古田教会
協力者 山根 可式理事
主催 江古田教会伝道委員会

〇関西アシュラム(第十一回)

十一月二二―二三日千里山シオンロヂ
協力者 同地区委員一同
主催委員長 中路嶋雄副理事長

〇東京城南アシュラム(第一回)

十一月二三日(火)目黒碑文谷教会
協力者 海老沢、山根 洲江、村田
主催委員長 大石 嗣郎理事

〇東京城北アシュラム(第七回)

七七年二月十一日(金)江古田教会
協力者 山根、岡田、大久保、他
主催委員会 東京城北五教会連合
九月には六ヶ所が開かれたが、来る十

一月にも右の通り、各地で開かれる予定
で目下熱烈な祈りと準備が進められてお
り、何れにも主の御臨在を仰ぎ、聖霊の
交わりと、新しい献身がなされるように
祈る。新しく変えられたいと願う兄弟の
御参加を期待する。

◆個人消息

宇都宮充兄(四国委員長) 九月末から二
週間、台湾香港方面に伝道された。
大石嗣郎兄(総務理事) 九月二四日から
ソ連初め東独など共産圏の教会との友
誼を深め、十月二二日帰国される。
谷本 清兄(中国委員長) 今夏NHKブ
ックスの一冊として「広島原爆とアメ
リカ人」ある牧師の平和行脚と題した
著書が出版された。

総務の窓

大石 嗣郎

日本にはもう一つのアシュラムがある
ようにうかがっておりますが、この運動
(かつて教会に行っておられた兄弟を連
れ戻す)には世によく言われる主流派と
か反主流派というものは絶対に存在す
るのではない。開心・静聴・充満・献身
・奉仕のこの五大原則を日々怠らず誠心
誠意をもって守っていると、自らその真
偽があらわになされる。各地区で計画さ
れている地区アシュラムの上に、主の豊
かな恵みがあるように、「イエスは主な
り」。

米国の連盟の事務局が改組されたため

国際ニュースが当分来ないので、問合せ
中である。米国の季刊誌を注文したので
近日中に入手次第、紹介したい。

韓国から三名が関東アシュラムに参加
希望され入国手続を取ったが、政情不安
のため出国不可能となりお断りがきた。
残念なことである。

ジョーンズ博士記念事業

(第十三回献金報告・八一九月)

- ▼四万円 中部地区アシュラム委員会
- ▼二千元 菅原昭子(東北・水沢)
- 小計(二件)金四二、〇〇〇円
- (累計)金二、三九八、八〇〇円

◆連盟賛助の祈り(八一九月)

- ▼五万円 関東地区アシュラム委員会
 - ▼四万円 道南地区アシュラム委員会
 - ▼三万円 池ノ上キリスト教会(東京)
 - ▼二万円 中部地区アシュラム委員会
 - ▼一万円 池本金三郎(関東・城西)
 - 海老沢宜道(〃・城北)
 - ▼五千元 家弓三從子(東京・池上教会)
 - ▼一千元 菅原 昭子(東北・水沢)
 - 小計(九件)金二七一、〇〇〇円
 - (収入累計)金一九四、五〇〇円
- 以上何れにも信仰と愛の心からなる献
金をお寄せ頂き、感謝の至りです。御栄
光のために用いまして頂きます。なお今
後ともよろしくお願いいたします。

▼アシュラムとは故スタンスロー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を
取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈り生活の場である。

東京都目黒区中央町1-21-10
碑文谷教会気付
アシュラム連盟

参加者が何度でも読むべきもの
「アシュラムとは何か」(50円)